

腹腔鏡内視鏡
合同手術研究会
Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第20回 2019年11月20日

■テーマ3	当院における大腸腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術 Surgical outcomes of laparoscopy endoscopy cooperative surgery-colorectal (LECS-CR) for colorectal tumor
-------	---

演者：福長洋介（がん研有明病院消化器センター）

Speaker: Yosuke Fukunaga, Cancer Institute Hospital, Gastroenterological Center

共同演者：斎藤彰一、千野晶子、井出大資、五十嵐正広、為我井芳郎、長寄寿矢、鈴木紳祐、鉾之原健太郎（がん研有明病院消化器センター）

【目的】大腸腺腫や粘膜内癌には内視鏡的切除術 (Endoscopic resection : ER) の手技が発展し広く普及するが、なかに ER 困難症例が存在する。ER 困難症例には、腹腔鏡下大腸切除術が行われるのが一般的であるが、当院ではさらなる低侵襲化を目指し、腹腔鏡・内視鏡合同手術 (Laparoscopy Endoscopy Cooperative Surgery - Colorectal : LECS-CR) による腸壁の全層部分切除を試みている。今回、当院における LECS-CR の現状について検討した。

【方法】2004 年 1 月から 2019 年 8 月に当院で粘膜下腫瘍、腺腫もしくは粘膜内癌と診断され、LECS-CR を施行した 22 例の治療成績を後ろ向きに検討した。

【成績】腫瘍の局在は、C : A : T : D : S : R : 小腸 = 11 例 : 5 例 : 3 例 : 1 例 : 0 例 : 1 例 : 1 例であった。LECS-CR を施行した理由は、虫垂開口部 11 例、憩室 4 例、繊維化 4 例、粘膜下腫瘍 3 例であった。手術時間は 167 分 (57-255 分)、出血量は 5ml (0-40ml) であった。開腹移行例は認めず、Clavien-Dindo 分類 Grade III 以上の合併症は認めなかった。術後在院日数は 6 日 (4-12 日) であった。

【結論】ER 困難症例に対する LECS-CR 安全に施行でき、入院期間も短縮化された。今後は手技のさらなる向上と工夫が必要である。